

2014年度 早稲田大学 人間科学部 国語解答例

(一)

〔出典〕

青木淳『原っぱと遊園地2』所収「写真に撮りにくい建築になってしまふのは」のほぼ全文（最後の部分に省略がある）。

〔解答〕

問一 A イ B ニ C ホ 問二 ハ 問三 イ
問四 ロ 問五 ニ 問六 ニ 問七 ハ
問八 ロ 問九 イ 問十 ニ 問十一 ホ
問十二 イ・ハ

(二)

〔出典〕

〔古文〕 『十訓抄』第十ノ七十四

〔漢文〕 『史記』殷本紀第三。問題文途中に文の省略がある。

〔解答〕

問十三 ホ
問十四 ニ（文法的にはイが当てはまるが、文意からニを答えとする）
問十五 ハ 問十六 ニ 問十七 ホ 問十八 ホ
問十九 ニ 問二十 ホ 問二十一 (1) ホ (2) ニ

〔講評〕

(一) がエッセイ的評論。(二) が古漢融合問題（ただし、古文、漢文はほぼ独立した問題として対処できる）という形式は昨年度と同じ。

(一) は、文章自体が読みやすく、問題の選択肢も本文との対応が比較的取りやすい問題が多かった。

(二) の古文は、文章の読解自体はそれほど難しいものではないが、問十四のように文法的には破格な箇所が設問になっていたり、問十五のように選択肢がやや紛らわしい問題があった。漢文は、「費中」「悪来」が人物名であることがわかりにくい。全体的には文意はとりやすい。また、(2) の選択肢がやや紛らわしい。

2014年度 早稲田大学 人間科学部 英語解答例

- [I] (i) 1-(C) 2-(B) 3-(A) 4-(D)
(ii) 5-(D) 6-(D) 7-(B)
(iii) 8-(D) 9-(D) 10-(A)
(iv) 11-(C) 12-(D) 13-(B)
(v) 14-(C) 15-(D) 16-(C)
(vi) 17-(C) 18-(A) 19-(C)
(vii) 20-(B) 21-(D) 22-(D)
(viii) 23-(A) 24-(B) 25-(B)

- [II] 26-L 27-A 28-F 29-E 30-J 31-I 32-B
33-J 34-B 35-K 36-F 37-I 38-K 39-E
40-J

- [III] 41-A 42-A 43-E 44-A 45-B 46-D 47-A
48-C 49-E 50-B

※ コメント

出題形式、難易度ともに昨年並みである。選択肢の中で紛らわしいものが2つ残るものがいくつかあった。たとえば、[I]の(viii)の本文の題名を答える設問25では、選択肢(B)(C)のどちらにするか迷った受験生は多いと考えられる。タイトル問題は、テキスト全体の内容をカバーし、これを予想させるものを選択するのが基本なので、(B)のほうがベターだ。認知力低下の文脈で、健康な生活がこれに対して有効であるというのが全体の趣旨である。また、正誤問題でも、**Despite the fact that...**では **that** は省略できる稀なケースであるといえるか(省略された例はほとんどない)、あるいは **science** は原則は不加算名詞だが、具体的に個別学問を示す場合には加算名詞として扱える、といった高度な問題点が見られた。